

国民健康保険中央会と全国健康保険協会が市町村国保と共同した健康づくりモデル事業をスタート

事業名:

市町村国保と全国健康保険協会(協会けんぽ)が共同して進める健康づくりモデル事業

全 4 枚(表紙を含む)

公益社団法人 国民健康保険中央会

問い合わせ先

保健福祉部 保健事業課

担当 室伏 三好

電話 : 03-3581-6825

e-mail : cyousa@kokuho.or.jp

国民健康保険中央会と全国健康保険協会が市町村国保と共同した 健康づくりモデル事業をスタート

2023.12.1 国民健康保険中央会

国保中央会は、協会けんぽと共同で、佐賀県鳥栖市と鳥取県湯梨浜町を対象地域としてデータ分析やポピュレーションアプローチ（１）、ハイリスクアプローチ（２）といった健康づくりのモデル事業を実施する。実施期間は令和5年度と令和6年度。自治体の既存の社会資源の活用を想定しており、効果的なデータの活用のあり方の検討も行う。

（注）

1ポピュレーションアプローチとは、集団の構成メンバー個々の健康リスクの状況に関わらず、集団全体に対して同一の取り組みを行うもの。健康増進を目的として行うウォーキング大会や、講演会などが該当。

2ハイリスクアプローチとは、健康リスクを持つ人をスクリーニングして、個別の健康指導や行動変容を促すもの。特定健診の結果に基づいて特定の個人に対して行う特定保健指導などが該当。

モデル事業を通じ、地域保険（国民健康保険）と被用者保険（協会けんぽなど）が連携した生活習慣病予防・健康づくりの効果的・効率的な事業のあり方などを検討し、各地域における地域保険と被用者保険が連携した生活習慣病予防・健康づくりの展開に資するよう報告書をまとめる。

国保連合会と協会けんぽ支部が都道府県単位でデータ分析などを共同で実施した例はこれまでもあるが、今回は対象2自治体、国保中央会、協会けんぽ本部を主体とし、佐賀県・鳥取県の国保連合会と協会けんぽ鳥取支部・佐賀支部の協力も得て実施する。

事業実施期間は令和5～6年度。市町村は、市町村国保と後期高齢者医療制度の被保険者に対し予防・健康づくりに取り組んでいるが、被用者保険の加入者も含めた地域住民全体の健康の保持・増進も重要な課題であり、一方、協会けんぽは事業所とともに被保険者の特定健診・特定保健指導などに取り組むなか、被扶養者の特定健診・特定保健指導実施率の向上が課題となっている。

今回のモデル事業は、こうした課題に対し、市町村と被用者保険が連携を強化することで被扶養者を含む住民の予防・健康づくりを推進できる可能性があるとし、医療保険者の枠組みを越えた取り組みにより、双方にとって課題となっている部分にアプローチすることをめざす。

-具体的には、市町村と協会けんぽがデータを提供・分析し、地域全体の健康課題を把握し、そのうえで必要な事業を検討のうえ、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを実施する。

ポピュレーションアプローチは、既存の健康づくりの取り組みを基盤として、モデル事業における検討で浮かび上がってきた健康課題の解決に焦点を当てた取り組みも行っていく予定。

ハイリスクアプローチは協会けんぽ加入の被扶養者を対象に、市町村国保の保健師が制度の垣根を越えて特定保健指導や生活習慣病などの未治療者への受診勧奨を行っていくことを想定しており、モデル事業を実施する自治体が協会けんぽと事業委託契約を締結した上で実施する。

令和5年度の事業終了後に中間報告、6年度の事業終了後に最終報告書を取りまとめる。報告書では、関係者間の協力・連携のあり方、事業の効果的・効率的な運営内容や方法、課題への対応、効果的なデータ活用のあり方などをまとめ、今後の医療保険制度の枠を越えた連携のあり方や取り組みや施策の展開の検討に資する内容とすることを旨とする。

本モデル事業で得られる成果としては、以下を想定している。

市町村・国保中央会・国保連合会・協会けんぽ間の協力・連携

市町村において、医療保険者の枠組みを越えた、障害を通じた疾病予防や健康づくりに資するための関係者間の協力や連携のあり方を検討・提案

事業の効果的・効率的な運営内容・方法、課題への対応方策

市町村において、医療保険者が実施する特定健診・特定保健指導、重症化予防等の事業の効果的・効率的な運営内容や方法、その他諸課題への対応方策等を検討・提案

市町村・国保中央会・国保連合会・協会けんぽが連携した効果的なデータの活用のあり方

将来的に市町村、都道府県単位での医療費適正化を目指した効果的・効率的なデータの連携や活用のあり方等を検討

中長期的な効果検証のあり方

地域の健康課題の把握から、地域及び職域における、ハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチ等の事業を通じて、中長期的な効果検証のあり方を検討

地域の生活習慣病予防・健康づくりへの貢献

地域の資源や既存事業のスキーム等の有効活用による、生活習慣病等の発症予防、地域住民全体の健康づくりに資する方策を検討

市町村国保と全国健康保険協会（協会けんぽ）が 共同して進める健康づくりモデル事業の概要

趣旨（背景）

課題

- 市町村においては、地域の健康課題に対応し地域住民全体への健康の保持・増進が重要
- 協会けんぽにおいては、特定保健指導の被扶養者の実施率が被保険者と比較して低い

検討策

市町村（地域）と協会けんぽ（職域）の連携強化による取組推進

目的

- 医療保険制度の枠を越え、生涯を通じた予防・健康づくりを推進
 - ・働き方やライフイベント等の変化に柔軟に対応できる環境整備
 - ・効果的なハイリスクアプローチ等の取組実施（特定健診等実施率向上）
- 地域全体の健康増進、更には健康寿命の延伸につなげることをめざす

モデル事業スキーム



事業内容

- ①協会けんぽの被扶養者を対象としたハイリスクアプローチの検討・実施
- ②住民全体を対象としたポピュレーションアプローチの検討・実施
- ③データ活用 of 取組みと検証、分析評価検証の検討・実施
- ④報告書の作成・公表

事業のねらい

- ①市町村・国保中央会・国保連合会・協会けんぽ間の協力・連携
- ②事業の効果的・効率的な運営内容・方法、課題への対応方策
- ③市町村・国保中央会・国保連合会・協会けんぽが連携した効果的なデータの活用のあり方
- ④中長期的な効果検証のあり方
- ⑤地域の生活習慣病予防・健康づくりへの貢献

モデル事業に期待される成果

- ・被用者保険と地域保険が連携した予防・健康づくりの取組の枠組みづくりの検討
- ・地域住民全体の健康度の向上に向けた施策の全国的な展開の可能性に向けた検討